



公式サイト

柳川市民文化会館

【開館時間】午前9時～午後10時、月曜休館
【問い合わせ】☎0944・73・7777

水都やながわ information



4月18日
販売開始

(一財) 地域創造の助成金を活用して実施します 水都やながわ五つ星コンサート



2024年に開催した五つ星コンサート

ポーランド出身で福岡市在住のピアニスト、イグナツ・リシェツキを中心に、国内外で活躍するトップクラスの奏者が柳川に集結します。4回目となる今年は、ウクライナへの祈りを込めて東欧の作曲家の楽曲を取り上げるほか、平和主義者として知られるイギリスの作曲家・ブリテンの楽曲、そして市民参加の合唱曲を新曲委嘱初演します。

- 日時 7月17日(金) 午後6時30分開演(開場は45分前)
- 入場料(全席指定) 一般4000円(未就学児入場不可)
- 無料託児 7月3日(金)までに要予約
- 前売券販売 4月18日(土) 午前10時から市民文化会館で販売開始

白秋を白秋ホールで歌おう 五つ星コンサートで共演する参加者募集

水都やながわ五つ星コンサートの白秋ホールアンサンブルと一緒に歌う合唱メンバーを募集します。現代日本を代表する作曲家・寺嶋陸也が白秋の詩に曲をつけ、新たな合唱曲が生まれました。合唱ワークショップを経て、ピアノ五重奏と合唱の夢の共演が実現します。

- 練習日 4～7月の毎週日曜日の午後
 - 共演日時 7月17日(金) 午後6時30分
 - 参加費 1万円(25歳以下は5000円)
 - 申込方法 3月31日(火)までに市民文化会館へ申し込み
- ※(一財)地域創造の助成金を活用して実施します。

企画展「白秋がみた柳河 受け継がれる水の構図」



白秋の遺作「水の構図」に掲載されている昭和10年代の柳河と柳川の今を写真で紹介いたします。



- パネル展
 - 期間 3月15日(日)まで
 - 会場・入場料 市民文化会館ギャラリー、無料
 - ギャラリートーク
 - 日時 3月8日(日) 午前10時～正午
 - 会場・入場料 市民文化会館ギャラリー、無料
- 【問】市生涯学習課文化財保護係(☎0944・77・8832)

定例

イベント

第1.3
木曜

リトミックひろば

- 日時 3月5日(木)、19日(木)
- ①午前10時～②午前11時～
- 料金 1組500円
- 講師 CHIAKI

ロビーコンサート

- 日時・料金 3月7日(土)午後3時～(約60分)、無料
- 出演 そがみまこ、やながわsuito合唱団
- ※3月20日(金・祝)は開催しません。

新 市史抄片

【問】市生涯学習課市史編さん係(☎0944・72・1275)

No.211

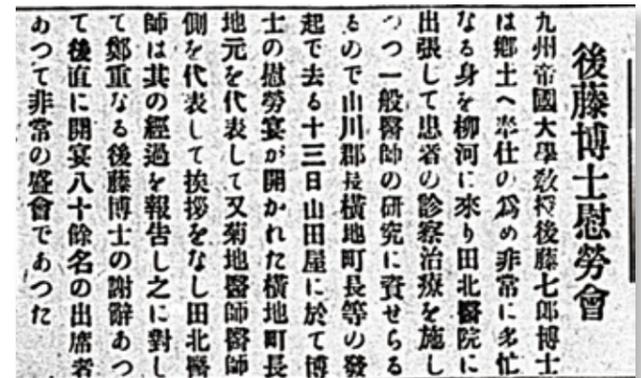
柳川が生んだ世界の外科医 後藤七郎博士

市史編さん係 中村 淳一



【図版1】秩父丸上の後藤七郎博士(向かって左側。昭和8年8月下旬。富安家文書)

【図版2】後藤博士慰勞会(「柳河新報」大正14年12月19日)



今回は柳川生まれで近代日本の医学界に偉大な功績を残した外科医後藤七郎を紹介いたします。

七郎は明治14(1881)年9月7日に中町の後藤貞治の四男として生まれました。後藤家は、紅粉屋という屋号の柳河藩の御用商人でした。七郎は中学伝習館と五高を経て、26歳で京都帝国大学福岡医科大学(のちの九州大学医学部)を首席で卒業し、陸軍の軍医となります。32歳で医学博士の学位を取得し、大正4(1915)年、海外の医学研究のため政府より欧州駐在を命じられて出国。当時は第一次世界大戦中で、日英同盟を背景に、七郎はパリでの連合国衛生会議に日本側の代表として出席しています。また、軍医としてフランス軍に従軍しました。

この欧州滞在中に七郎は輸血法を学び、大正7年に帰国します。翌年2月10日国内初の輸血による患者救命を東京の陸軍軍医学校で成功させる大偉業を成し遂げました。以後は、国内の一部の研究者間でその輸血方法に漸次改良が加えられました。第二次世界大戦後、血液の保存技術向上や献血制度の確立などにより輸血が普及していきます。

輸血に成功した2カ月後、七郎は軍医のまま九州大学医学部の教授となります。昭和17(1942)年の退官までに医学部附属医院長、医学部長、日本外科学会会長などを歴任しました。この間、海外の優れた医療技術の視察や大陸の戦地で戦う日本軍の医療技術向上のため、七郎は欧州や中国に度々渡りました。昭和7年には上海で起こった爆弾テロ事件で負

傷した重光葵(駐華特命全権大使)ら政府要人の救護にあたり、彼らの命を救っています。

図版1は、昭和8年8月下旬に旅客船の秩父丸の船上で撮影されたものです。七郎は8月11日、横浜より出航し、政府の命によりアメリカ経由で欧州に向かっています。各国の医療状況を見た七郎は翌年1月帰国後すぐに中学伝習館にてその報告会を行い、大盛況だったことが「柳河新報」で確認できます。

その一方で、大正14年に七郎は柳川の田北医院へ出張して診察治療を行っています。図版2はその慰勞会の記事です。この記事からこの診察治療が郷土奉仕のためであることが確認できます。この年から約3年間、七郎は同医院へ出張しています。

その後、昭和20年6月に福岡大空襲を受けて福岡市から現在の柳川市に移住。昭和37年12月7日、81歳で亡くなりました。七郎の門下からは多くの優秀な医師が育ちました。

柳川市史別編

幕末から昭和50年頃までの写真約1600点を収録
「写真機がのこした柳川」を刊行

- 構成 A4縦カラー526ページ
- 価格 4000円(税込み)
- 販売場所 柳川古文書館、トミヤ(京町)など

【問】同館(☎0944・72・1275)



※表記は広報紙のルールで統一しています。